学校番号	1006

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術演習Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「美術Ⅰ」の授業で学んだ技術を活かし、「デザイン」「絵画」「立体」の多様な表現を学びます。
・用具の使い方や色彩、構成、表現方法について学び、自分のしたい表現を追求します。
・デザインにおいて重要なアイディアやイメージを他者に分かりやすく伝え、デザインや色彩の興味関心を高めます。
・意欲的に制作に取り組むことにより，自分を再発見し，表現する楽しさや制作の喜びを味わって下さい。
・代表的な美術史上の作品を鑑賞し、より幅の広い表現方法を学びます。

2　学習の到達目標

美術の豊かな創造活動を通して、造形的な見方・考え方や美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や文化に触れ、興味を持つことができるきっかけとなることを目指す。
（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、多様な個々の表現を大切にした創作ができるようにする。
（２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。
（３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに感性を深め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく経験を重ねる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解し、意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫している。	自然や自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	美術の制作を通して試行錯誤しながら体験や経験を重ね、主体的に創作や鑑賞の創作活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	色彩構成とレタリング	・オリエンテーション 美術Ⅰから発展した美術演習の内容を知る。 ・色彩構成 用意された数種類のモチーフから選択したモチーフをデフォルメしデザインして構成する。 ・可読性とデザイン性のバランスを意図的にコントロールして人目を引きつけるデザインになるよう工夫する。 ・文字をグラフィックの重要な要素と捉え、ロゴ、フォント、サイズ、レイアウトをイラストレーションと同時に構成する。 ・相互鑑賞	a: レタリングと平面構成の基礎的な方法を理解して平面に構成し、アクリル絵の具の特性や筆の使い方を理解して丁寧に、または効果的に着色する。 b: 選択したモチーフの持つイメージや特性を自分なりに解釈し、文字（レタリング）や形・色彩の働きを考えながら、表現し構想を練っている。 c: 文字をデザイン(レタリング)することで文字そのものがひとつの表現となることに関心を持ち、自分だけの表現を目指そうとしている。	作品	制作途中の作品、制作の様子	制作の様子
2学期	静物画(絵画表現・油彩)	・油彩の道具や絵の具の使い方を知る。 ・静物をモチーフに油彩で自由に表現する。 ・美術史上の代表的な油彩の作品を鑑賞し、多角的な観点から作品を味わう。 ・自ずと確立してゆくオリジナルな主題を主観的、客観的視点を踏まえて制作に取り組む。 ・絵を描くことの原点でもある、喜びや楽しさ、好奇心を再認識する。	a: 油彩の道具や絵の具の特性を理解し、効果的な表現方法を工夫して制作している。 b: 自分自身ついて考えたり見つめることで、オリジナルな表現を目指し、価値観や方法に捉われることなく自由に構想を練っている。 c:客観的に作品を考察し、主体的に美術史上の代表的な油彩の作品を鑑賞し、油彩の多様な表現方法に積極的に取り組もうとしている。	作品	制作途中の作品、制作の様子	制作の様子

3学期	立体(ケント紙による制作)	・紙の特性と加工方法について知る。 ・自然の現象を一つ選び、自分のイメージをケント紙を使って形にする。 ・パターン化して制作したたくさんの形を決められたパネルの上に自由に構成する。	a: 紙の特性や加工方法を理解して、道具の使い方を工夫し、丁寧な作業を心がけ表現している。 b: 自分が感じる抽象的なイメージを形にするために自己と向き合い、独自の表現で制作し、大きさ・空間・質感・形にこだわって構想を練っている。 c: 制作のための資料を主体的に調べるとともに、他にイメージを豊かにするための自分の目線を大切にして取り組もうとしている。	作品	制作途中の作品、制作の様子	制作の様子

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度